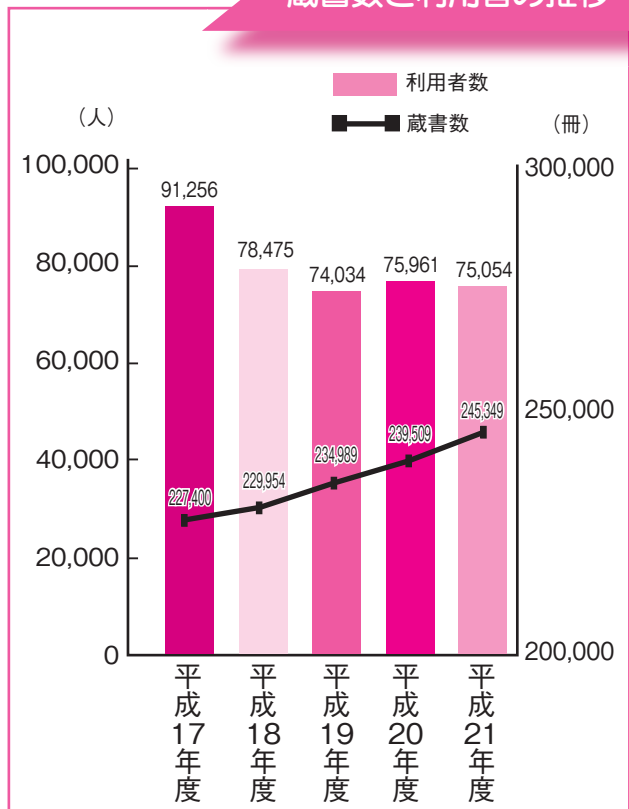




# 特集

# 図書館を楽しもう！

蔵書数と利用者の推移



インターネットの急速な普及や社会不安によるゆとりの時間の減少など様々な要因により、現代人は、本に触れる時間が減ってきているといわれています。

また、子どもの世界においても、近年活字離れが進み、読書をする時間が急激に減少しつつあります。

毛呂山町立図書館においても、この5年間で蔵書数が、約18,000冊増えたにもかかわらず、利用者数は減少してきています。

そのようななか図書館では、利用者を増やすために、おはなし会や子ども映画会、児童用の移動図書館を行ってきました。そして、平成22年度からは、より多くの図書館講座を開設するようになりました。

今回は、様々な取組を進めている図書館の“今”を、皆さんにお知らせします。

# 興味や趣味を広げよう！

## —図書館講座—

図書館では、今年度から、より多く講座を開くようになりました。

以前から図書館では、「知識を深めたい」「趣味を広げたい」という利用者の要望を取り入れた事業を行いたいという計画がありました。しかし、なかなか実行ができませんでした。しかし、今年度、実行に移すことになりました。

図書館の講座は、「手作り絵本」や「本の修理」といった本に関するものから、「バラの育て方」や「音楽療法」のように趣味や勉強の範囲まで多岐にわたります。これも一人でも多くの人に、図書館に足を運んでもらいたいとの気持ちから生まれたものだと思います。

今年度は、まだこれから受付を行う講座が多くありますので、興味をもった講座があれば、受講してみたいかがでしょうか。図書館では皆さんのご来館をお待ちしています。お気軽にお越しください。

※詳細は、この広報紙15ページと22ページをご覧ください。

### 実際に講座を受講した人に話を聞きました

実際に足を運んで本当に良かったと思います。このような講座は、勉強になるだけでなく、聞くだけでも自分にとってプラスになります。

図書館は、自宅から近いので利用しやすくて助かります。

以前から勉強したいと思っていたことがあったのですが、その方法がわかりませんでした。しかし、講座を受講することで勉強のきっかけがつかめました。

初めて図書館の講座を受講しました。興味があった内容のせいかもしれませんが、とても興味深く受講させていただきました。

今後も皆さんが興味のわくような企画を期待しています。

図書館の講座は2度目になりますが、たいへんためになり、よかったです。

このような講座が頻繁に行われることで、利用者の幅が広がるのではないのでしょうか。

### 少しでも興味のある講座があれば、受けてみてください

講座を受講することは、自身の知識を深めるのにたいへん役立つと思います。しかし、講座を受講して終わりにせず、受講後も皆さんに図書館を「コミュニケーションの場所」として利用してもらいたいと図書館では考えています。

図書館で行われる講座をきっかけとして、利用者の趣味だけでなく、交遊関係が広がれば嬉しいことです。また受講したことで本に興味をもち、本を借りていただければ、さらに嬉しく思います。少しでも興味のある講座を目にしたら、ぜひ、受講してください。

これからも図書館では、皆さんの声や意見に耳を傾け、講座や図書を一人でも多くの人に利用してもらえようように努力していきます。



毛呂山町立図書館司書  
神野 昌子さん



chapter

2

楽しいがたくさん!

# —移動図書館—

給食、清掃の時間が終了すると、元氣よく子どもたちが校庭へと飛び出していきます。その途中、移動図書館の前で多くの子どもたちが足を止め、「今日移動図書館が来る日だったんだ」、「予約していた本は持ってきてもらっていますか」と子どもたちが集まり、みるみるうちにいっぱいになります。

図書館では、各小学校へ月に1回から2回ほど、貸出用として本を届けるために移動図書館を行っています。この事業は、約3年前から始められており、各小学校における移動図書館での本の利用数は、1回の移動図書館で100冊を超えています。「本は大好き。最近怖い本が好き」、「本を読むのはおもしろい。月に20冊も読むこともあるんだよ」。子どもたちは両手いっぱい本を抱え、目を輝かせながら話してくれました。図書館では、来年度から移動図書館を全小学校で月2回運行する予定になっています。

子どもたちと接することができるとても楽しいですよ

図書ボランティアは、昨年の5月ごろに小学校で募集が行われたときに自ら応募した保護者の皆さんです。川角小学校では、月に1回の移動図書館のときに図書ボランティアの保護者7人が交代でお手伝いをしています。

「子どもたちに顔を覚えてもらえるのが嬉しいですね」、「自分の子ども以外の子どもに接することができるのは貴重ですよ」。子どもたちとの触れ合いは、楽しくて、苦勞を感じたことがないといいます。ボランティアの皆さんも子どもたちから本が好きだったそうです。「子どもたちには本をいっぱい読んでもらいたい」と皆が口を揃えて話してくれました。



取材当日の川角小学校  
図書ボランティアの皆さん



川角中学校  
わぐりともみ  
和栗 智巳校長

### 文学に触れ、豊かな感情を養ってほしい

来年度より、川角中学校にも移動図書館に来てもらう予定です。

我が校の生徒に限らず、今の中学生は文学に触れる機会が少ないと思います。各学校に図書館は設置されていると思いますが、それだけでは不足している部分も多いと思います。また、今の中学生は、感情表現がうまくできない子が多いように常々感じていました。そこで、今回移動図書館を有効活用することで、生徒たちに文学に触れるための機会を提供できればと考えました。

その理由として、文字に触れることが重要であると考えているからです。文字に触れることにより、喜怒哀楽や、感動という感情が芽生え、嬉しいときには、笑顔で答えるといった感情、感性が磨かれるものだと思っています。

次に文字を書くことです。文字を書くためには、思っている気持ちを正しく書き表す技術が必要で、感情を表現する力がないとできません。私自身も日記をつけることで文章能力がついたと実感しています。

そのためにも文字に触れ、文字を書くことが、今の中学生に必要であると私は考えています。しかし、読書は、周りから強制的に読まされても楽しさは半減しますし、それぞれの興味も違います。まずは、読書の楽しさを知ってもらうために、生徒たちに少しずつでも、本を読むきっかけを与えられるようにしていきたいと思います。

### 一人でも多くの子どもたちに本を読む楽しさを伝えたい

今後子どもたちの様ざまな要望に応えながら、目新しい本や季節にあった本をお届けしたいと思えます。

図書館まで本を借りに来ることができない子どもたちにとって移動図書館は、本に触れることのできる貴重な機会になっていると思います。移動図書館が今の形になって、まだ3年ぐらいたと日は浅いですが、徐々に各小学校に定着してきたのではないかと思います。

本を読むことは、活字に触れ、様々なことを勉強できるだけでなく、読んだ人の想像性を養い、考える力や表現する力を育てることができると思います。そのためにも私たちは、一人でも多くの子どもたちに本を読む楽しさを伝えられるように努力していきたいと考えています。

もっと皆が本をたくさん読んでくれると嬉しいです

鈴木先生は、学校で自分が受けている学級や授業のほか、図書主任として、読書を促す掲示物や家庭用の読書カードを作成して、子どもたちに読書の啓発をしています。

「川角小学校では、多くの子どもたちに読書の魅力を知ってもらうため読み聞かせを行ってききました。しかし、これまで機会が少なかったため、来年度より毎週水曜日の朝に読書の時間を設け、月に何度かボランティアの人に頼み、読み聞かせをしていきたいと考え

ています」と鈴木先生は話します。

鈴木先生は、本は読むだけでなく、聞くことも必要だといます。文章が耳から入ることで、各児童の想像する力を養い、心豊かに成長するための要因になると考えているからです。「文章を耳から聞き入れ、各々が自由にイメージを膨らませることで、豊かな想像力が育まれていきます。それにより、親や兄弟、友達に対する接し方に良い影響を与えたり、他人を思いやる気持ちが生まれると私は思います」としっかりと口調で答えてくれました。「そのためにもっと読み聞かせの時間を取



川角小学校図書主任  
鈴木 琴 先生

りたい」とも語ってくれました。

読書をする中で、分かりやすく人に何かを伝える力、国語力や言語力を習得できるといえます。「読書にはすごい効果があるんですよ。もっと皆がたくさん本を読んでもくれると嬉しいです」と鈴木先生は笑顔で語ってくれました。



毛呂山町立図書館司書  
清水 久子さん

図書館まで本を借りに来

# 伝える、伝わる楽しい話！

## 「おはなし会」

昭和61年から続けられているおはなし会。この活動を続けているのは、図書館ボランティア「おはなしのクレヨン」の皆さんです。

「おはなしのクレヨン」は、子どもたちに楽しいおはなしを伝えたいという気持ちと想像力を養う場を子どもたちに提供したいという思いから活動を続けています。「おはなしが始まると、子どもたちが目を輝かせておはなしの世界に入り込んでくれるんですよ」と活動を楽しそうに語ってくれました。聞き手と読み手が一緒に楽しむことができるのが、この活動の魅力のひとつであるようです。

おはなし会は、絵本の読み聞かせのほかに※ストーリーテリングや紙芝居、手遊びなども行っています。「もっと多くの子どもたちにおはなしの楽しい世界を感じてもらいたい」というのが「おはなしのクレヨン」の皆さんの思いです。友達と一緒に、また親子で遊びに来てください。

### おはなしの楽しい世界を子どもたちに味わってほしい

「おはなしを読んでもらう」ことは、子どものころに経験のある人が多いと思います。おはなしを大人に読んでもらうことで、子どもは、絵に集中ができ、おはなしの世界に入りやすくなります。このことは、子どもの想像力を養い、成長してからの読書につながるといわれています。

おはなし会は就学前のお子さんから小学生まで楽しめるように毎回工夫して行っています。おはなし会で聞いた絵本を借りて帰って、家族で楽しむのもおすすめです。

子どもと本を結び活動は、図書館ボランティアの皆さん、各学校の先生など多くの人の協力がなくてはなりません。今後も連携を図りながら子どもたちに夢を届けたいと思います。



毛呂山町立図書館司書  
よねはら  
米原由美子さん

※ストーリーテリング……本の話をも暗記して、語ること。

# 図書館長に聞きました!

館長に就任してからの感想を聞かせてください

4月に毛呂山町立図書館の館長に就任させていただいてから、利用者の利便性を第一に考え、開館時間の延長や休日の変更などさまざまなことを行ってきました。まだまだ力不足のため反省することも多くありますが、それを今後にかして、多くの皆さんに喜ばれるような事業を企画していきたいと考えています。

今年度行われた事業の成果はいかがでしたか

講座については、各種行えたことが成果であると思います。今後



毛呂山町立図書館  
つねひさ 渡邊 庸久 館長

もこれを継続するだけでなく、陶芸やスポーツといったこれまで取り組まなかった分野の講座も行ってみたいと考えています。

移動図書館は、学校にはとても好評でこれからも続けていきたいと思えます。また来年度からは中学校にも行く予定ですし、小学校は、全小学校で月に2回行きたいと考えています。

おはなし会は「おはなしのクレヨン」の皆さんに長く続けていただいている事業です。親子のふれあいのきっかけを作るための大切な事業だと考えていますので、もっと宣伝をして、多くの親子に利用してもらいたいと思います。

平成23年度はどのような事業をする予定でしょうか

来年度は、先にも述べたとおり、移動図書館の拡大を図ります。また講座にしても、もっと多くの人が興味を持ってもらえるようなものを考えたいと思っています。

この毛呂山町立図書館は、蔵書数のみならず、CDやDVDといった視聴覚資料の数も豊富な図

書館です。本を借りるだけではなく、視聴覚資料の利用者ももっと増えてもらえるように努力していきたいと思えます。そして、一人でも多くの人に本のよさを伝え、住民皆さんのニーズに応えられるように職員一丸となって頑張っていきたいと考えています。

図書館は住民にとってどうありがたいと思えますか

図書館は住民の皆さんにとって気軽に訪れることができる施設でなければいけないと感じています。本を読みに来たり、借りに来ているお客さんのご迷惑にならない範囲であれば、図書館を展示などの活動の場所として利用してもよいと考えています。

図書館は、皆さんが集まれる場所として、中学生の絵画や、手作り絵本の展示などコミュニティの場として提供を図っていききたいと思えます。

図書館の今後の運営方針について教えてください

図書館は、地域の文化施設の核になりうる施設であると思えます。それだけでなく、情報発信の図書館としてホームページなどを活用し、積極的にアピールする図

書館を目指して運営をしていきたいと思えます。

今後図書館では、アンケートをとりながら、住民ニーズに添えていきたいと考えています。図書の貸し借りだけでなく、講座の開催も多種多様にわたり対応していきたい、気軽に訪れていただけるような施設にしていきたいと思っています。

最後になりますが、図書資料が紛失したり、破かれたり、汚されてしまったりするものが多々あります。図書資料は、皆さんの大切な共有財産です。マナーを守って利用していただければたいへん嬉しく思います。

